

2026年3月1日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28 : 19~20)

受難節第2主日

朝第1礼拝 9:00~10:10

朝第2礼拝 10:30~12:00

〈神の招き〉

前 奏 われを憐みたまえ、おお主なる神よ バッハ

招きの詞 イザヤ書 55 : 6~7

交読詩編 18 : 1~7

讃美歌 9

〈神の言葉〉

聖 書 レビ記 16 : 2~10
(旧約 聖書協会共同訳 174 頁)
ヘブライ人への手紙 2 : 14~18
(新約 聖書協会共同訳 394 頁)

祈 禱
讃美歌① 57
奉 唱② 294
説 教 「大祭司イエスによる救い」
熊江秀一牧師

祈 禱
黙 想
讃美歌 291

聖 餐
讃美歌 78

〈神への応答〉

信 仰 告 白 日本基督教団信仰告白

献 金

主の祈り

宣 教 報 告②

頌 栄 29

派 遣 と 祝 福

後 奏 我が心の切なる願い バッハ

宣 教 報 告①

夕 礼 拝 18:00~19:10

〈神の招き〉

前 奏 血潮したたる バッヘルベル

招きの詞 イザヤ書 55 : 6~7

交読詩編 18 : 1~7

讃美歌 17

〈神の言葉〉

聖 書 箴言 25 : 21~22
(旧約 聖書協会共同訳 1009 頁)
ルカによる福音書 6 : 27~36
(新約 聖書協会共同訳 112 頁)

祈 禱
讃美歌 298
説 教 「敵を愛しなさい」 佐藤潤伝道師

祈 禱
黙 想
讃美歌 492

聖 餐 司式 熊江秀一牧師
讃美歌 78

〈神への応答〉

信 仰 告 白 日本基督教団信仰告白

献 金

主の祈り

宣 教 報 告

頌 栄 25

派 遣 と 祝 福

後 奏 おお人よ、汝の罪の大きいなるを嘆け バッヘルベル

今週の御言葉

それで、イエスは、神の前で憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を宥めるために、あらゆる点できようだいたちと同じようにならなければなりません。(ヘブライ人への手紙 2 : 17)

次週の礼拝 (3月8日)

① 9:00、② 10:30
説教「私たちこそ神の家」
熊江秀一牧師
出エジプト記 40 : 17~38、
ヘブライ人への手紙 3 : 1~6
交読詩編 31 : 8~14
讃美歌 12、59、300、29

夕 18:00
説教「人を裁くな」
佐藤潤伝道師
詩編 37 : 1~11、
ルカによる福音書 6 : 37~42
交読詩編 31 : 8~14
讃美歌 11、299、467、26

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. レント(受難節)の歩みの為に
4. 3月の宣教の為に
5. 各部例会(総会)の為に
6. 世界祈祷日(6日)の為に
7. 牧師・伝道師の為に
8. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、世界の平和の為に
9. 病気の兄姉の為に

*関東教区お祈りカレンダー 鴻巣教会 深谷教会 深谷西島教会

◇先週の説教より「招きにふさわしく歩む」 詩編 100 編 1～5 節、エフェソの信徒への手紙 4 章 1～7 節 佐藤潤伝道師

これまでパウロは、神への賛美と祈りを通して、教会の土台が、「神の秘義」すなわち、キリストによる十字架の死によって救われた者たちが一つの体とされた恵みへの信仰にあることを示してきた。その恵みを受けた私たちに向けて、4 章からは「ですから」と語り出し、救われた者としての具体的な歩みを勧めている。

信仰生活とは、自分の努力によって救いを保つことではない。祈りや聖書朗読はもちろん大切ですが、それを自分の義務や力で支えようとするとうれが生じる。逆に、恵みに甘えて、新しく変わることを求めなくなると、信仰は衰退していく道をたどる。どちらも信仰を個人の問題として捉えるところから生じている。

パウロは、信仰生活とは、「招きにふさわしく歩む」ことだと語る。すでに神に招かれ、教会に加えられた者として、その恵みに感謝し、応答し、一つの希望に向かって共に生きる歩みである。この勧めの中心は教会の一致を守ることにある。

キリストが十字架によって与えてくださった平和に結ばれ、「霊による一致」を保つことが求められている。

その具体的な姿が、謙遜、柔和、寛容、そして愛をもって互いに耐え忍ぶことである。これは私たち人間の努力ではなく、聖霊によって内なる人が強められ、キリストの愛が心に根づくことによって可能となる。教会の一致は私たちが作るのではなく、三位一体の神に基づいて、すでに与えられている現実である。「7つの1つ」に示されるように、父・子・聖霊なる神が一つであることが、教会の揺るぎない土台である。

だからこそ私たちは、その一致を守りつつ、多様な賜物を生かして歩むのである。自分の努力でも甘えでもなく、すでにいただいている神の恵みに感謝して応答する。それこそが、詩編 100 編が歌うように、感謝と賛美をもって主の前に進む歩みであり、「招きにふさわしく歩む」信仰生活なのである。

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈祷当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☾は夕礼拝。